

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



未来都市の設計図に加えるべき視点— 衛生とテクノロジーが支える判断の前提 シェル商事(株)／8thCAL Inc.代表 岡部 美楠子

衛生管理の現場で起きていること

人手不足が進むなかでも、衛生管理の現場では、対応の迅速さが前提条件として組み込まれています。ときには24時間以内の初動対応が前提になる場面も珍しくありません。一方で、その迅速さが、特定の人の経験や判断力に依存して成立しているケースも増えているように感じます。以前から感じていた課題でしたが、2025年を通じて、その構造をよりはっきりと意識するようになりました。属人的な判断に支えられた迅速さは、永続的な再現性を持ちません。人が入れ替われば止まり、疲弊すれば破綻する。だからこそ、今後は「早く対処できる環境をどうつくるか」という視点が必要になってきます。もちろん、研修などを通じて一人ひとりの従事者の技術力を高めていくことは不可欠です。そのうえで、個人の力量だけに依存しない環境をどう整えるか。その多くは、対応が始まる前、つまり設計や計画の段階にあります。

想定外を生む社会構造と既存のルール

大阪万博で話題になったシオユスリカの大量発生や、レジオネラ菌の発生も、環境や衛生の視点で見れば、決して突発的な出来事ではありません。水の滞留や循環の偏りが生じやすく、人工的な水環境が連続して配置され、日本においては管理のルールや単位が細かく分かれている。そうした条件が重なれば、生物や微生物が増えやすくなること自体は、十分に想定できる範囲のことです。これは万博に限った話ではなく、日本の都市空間が今後も共通して抱えやすい条件でもあります。起きたあとにどう対応するかも重要ですが、それだけでは迅速さは属人化したままです。どこで、何が起き得るのか。起きた場合、どこまでが想定内で、どこからが例外なのか。判断の根拠や前提が共有されなければ、対応は人に依存したままになります。その整理が事前に共有されていれば、「想定外」とされる事案の

多くは防ぐことが可能になります。また、万が一発生した場合でも、判断は驚くほど早く、冷静になります。



2026年からの設計図

これからの一年、シェルグループとして、またInsectopiaの発行者として重視したいのは、衛生とテクノロジーを通じて「判断環境」を整える仕事を、個別の企業や業種に閉じない形で社会にひらいていくことです。衛生管理や環境リスクに関する判断は、本来、専門性と説明責任の両方を伴うものです。AIなどのテクノロジーは判断を代替するものではありません。しかし、判断に必要な情報や構造を、誰が見ても同じ前提で理解できる形に整えることはできます。それによって初めて、迅速さは、一人・一社・一業界の属人的な能力ではなく、社会にひらかれ、再現可能なものになります。これからは、「なぜその判断に至ったのか」「どこまでが想定内で、どこからが例外なのか」そうした前提が、現場・設計・行政・市民のあいだで共有される状態を、より意識的につくっていきたいと考えています。

シェルグループは、そのための実装を担い、Insectopiaは、その前提や判断の背景を言葉として記録し、次に引き継げる形で残していく。判断を属人化させないための前提を、衛生とテクノロジーの両面から都市に組み込んでいくこと。それが、2026年から始まる私たちの設計図です。



【HCJ2026】国際ホテルレストランショーへ 出展します！

シェル商事は、2026年2月開催の「国際ホテル・レストランショー」に出展いたします。本展示では、宿泊施設向けトコジラミ対策サービス『トコジラぬ』と、その知見を発展させた新サービス『ペストコンサルテーション』をご紹介します。

昨年の展示会では、トコジラミ対策のトータルサービス『トコジラぬ』を初めて本格的にご紹介し、**発生後の駆除にとどまらず、予防を重視した新事業**に多くの反響をいただきました。その後、宿泊施設を中心に導入が進み、現場での運用性や再発リスク低減が評価され、導入施設・対応件数ともに着実に増加しています。

2025年もインバウンドの急増により、海外からトコジラミが持ち込まれるリスクが高まり、宿泊施設における衛生管理対策の重要性が一層注目されました。『トコジラぬ』は、調査・予防・対策を一体化したサービスとして、施設運営の負担を抑えながら衛生品質を維持できる点が強みとなり、現場での実効性を重ねてきました。当社は、こうした『トコジラぬ』の実績を土台に特定害虫への対応にとどまらず、建物全体の有害生物リスクを俯瞰的に捉える包括的衛生管理サービス『ペストコンサルテーション』をリリースしました。

展示会概要

「国際ホテル・レストランショー」は、宿泊・飲食・給食・中食業界を網羅する日本最大級の商談展示会です。最新設備・サービスから業界トレンド、DX、人材活用、インバウンド対応まで幅広いテーマを扱い、多くの関係者に活用されています。



国際ホテルレストランショー
フード・ケータリングショー
厨房設備機器展



建築と衛生をつなぐ、新しい有害生物対策
ペストコンサルテーション
PEST CONSULTATION
トコジラミの危機を乗り切る
予防+駆除プログラム
トコジラぬ



おかげさまで
65
TH
SHELL
For Clean Environment Since 1960
powered by **8thCAL Inc.**

予防設計の新時代へ——

『トコジラぬ』×『ペストコンサルテーション』
『ペストコンサルテーション』は、『トコジラぬ』で培った現場知見を活かし、建築計画の初期段階から衛生リスクを設計に組み込む予防型サービスです。着工前から竣工後まで一貫してサポートし、立地・構造・運用に応じた最適な対策を提案することで、長期的な衛生品質の維持と施設価値の向上に貢献します。

シェル商事は、グループ全体で技術と知見を集結させ、害虫獣衛生管理をはじめとした「事後対応」から「未然防止」へ活動の領域を広げています。
ぜひ、会場でご体感ください。

🔥 **ブース来場者限定**
モニターキャンペーン実施予定！

🔥 **当社ブースNo.W1-B31**
ご来場登録は[こちらから](#)



今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
真面目公園昆虫館館長



モリカワオオアザミウマ (森川大薊馬)

アザミウマ目クダアザミウマ科
学名：Holurothrips morikawai

体長2mm以下の小さい種がほとんどのアザミウマの中で、4.4~5.9mmほどもある大型のアザミウマ。成虫は微小な翅を持つが、ごく稀に完全な翅を持つ個体が出現するという。本州~沖縄島までの常緑広葉樹林の落ち葉に生息し、菌類を食べると考えられている。

Information

●Pick up 展示会情報

ビルメンCONNECT

ー建物・施設・店舗のメンテナンス技術 総合展ー
会期：2026年3月3日(火)~3月6日(金)
会場：東京ビッグサイト
▶▶[詳細はこちら](#)



サーキュラーエコノミーEXPO

会期：2026年3月17日(火)~3月19日(金)
会場：東京ビッグサイト
▶▶[詳細はこちら](#)



●トコジラミサポート

トコジラミ予防×駆除サービス受付中

▶▶[詳細HPはこちら](#)
▶▶[資料ダウンロード](#)



Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を
配信中です。

